新型コロナウィルス感染拡大注意！再度，「手洗い」「マスク着用」「三密注意」を心がけよう。

玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 31
R2・12・14

まずは三年生から試行開始！

先週もお知らせしたように、国の「GIGAスクール構想」を受けて、行方市内の小中学校でも一人に一台ずつタブレットが貸し出されますが、その先を切って、三年生から始まりました。まずは、その使い方に慣れようというこで十日に外部から講師を招いて生徒対象の講習会が開催されました。

これまでも授業等でPCを使うこともありましたが、自分専用のPCとして立ち上げたりする操作はしていなかったので、講師の指導を受けながら自分の専用のPCに入力していました。

どのように変わるのか、今、先生方も研修中で、具体的なことは言えませんが、これまでの先生が、話したことや黒板に書いたことをノートにとるというスタイルは少しずつ変化していくことはまちがいありません。

今週は、一・二年生も操作についての講習が行われます。しっかりと聞いて、確実に操作方法を身に付けていきましょう。

一人に一台ずつＰＣが入りました！

講習を受けている生徒の様子

これからの授業が変わります！

前号でもお知らせしたように、これから毎日の授業が大きく変わっていきます。

スマホ18の約束

「スマホ18の約束」とは、アメリカの一母親が、十三歳の息子にスマホを買ってあげても良いかどうか悩んだ末に作った息子へのメッセージ。つぎつぎのメッセージで読む人すべての共感を得たと言っても過言ではないくらいにアメリカでも感動を呼んだものです。その一部を紹介します。

★学校がある平日は夜7時半、週末は夜9時になったら、親にスマホを引き渡すこと。夜の間は電源を切り、また朝7時半に電源を入れます。

★学校に持って行ってはいけません。メッセージ、メールではなく直接対話しなさい。人との会話は大切なスキルです。

★人に対して嘘をつくこと、ばかにすること、あざむくことに使ってはいけません。たとえ誘われても、人のためになることを大切に考え、人を傷つけることには参加しません。

★面と向かって言えないことは、メールなどで言わないこと。

★自分を見つめなさい。友達の親がいる前で言えないことは、メールでも言わないこと。

★隠しておくべき自分のプライベートや、他人のプライベートの写真を送ったり、受け取ったりしないこと。あなたは賢い子ですが、そうするようにと誘惑されることがあるでしょう。こうした行為は、あなたのこれからの人生を台無しにする恐れがあります。巨大な力をもつネットワーク空間で、一度広まった悪い評判を消すことは困難だからです。一度広まった悪い評判を消すことは困難だからです。

★たまにはスマホやゲーム機を家において出かけましょう。携帯がなくても生きていけるようになさい。

自分が自己満足するだけのSNSではなく、他者を思い、他者を支援していけるようなネットワークであってほしいと願ってやみません。

玉小の六年生が来校しました
中学校の授業体験

十一日午後、玉造小の六年生が来校し、中学校の授業を体験しました。毎年、玉造地区小中一貫教育の一つとして実施されている事業ですが、早いうちから中学校生活に慣れるという目的で、今回は六年生の各学級が数学・美術・理科の授業を体験しました。体験した六年生からは「中学校の授業は難しい。」「理科の実験は本格的で楽しかった。」などの感想が返ってきました。

美術の授業体験をする六年生

授業体験の後は、一番の関心のある部活動を見学しました。生徒会役員の先導で各部活動を回って見学しましたが、授業体験とはまた違った姿が見られました。

今回の授業体験で最も活躍していたのが、本校の生徒会役員の生徒たちでした。六年生を責任を持って引率してくれたし、必要なときにはきちんと分かりやすく六年生に的確な指示を出していました。六年生の児童も安心して見学ができたようでした。生徒会役員の皆さん、ありがとうございました。

今週は「教育相談」ウィークになります。

今週は「教育相談」ウィークになります。今年は例年と違い、今年だけ前後期の二期制になったため、この時期例年のように通信票の作成もありません。そこで、長かった今年の後半を、生徒一人一人と振り返るというねらいで、全生徒との面談を実施します。そのために今週は一校時から六校時まで短縮日課で行い、七校時に「教育相談」の時間を設定しました。

普段、同じ教室で過ごしていても、なかなかじっくりと担任の先生と話す機会は少ないと思います。この機会を使ってぜひ担任といろいろな話をしてみて下さい。

編集後記
「明るい話題　はやぶさ２」

新型コロナウィルス感染拡大という暗いニュースが連日賑わしている中、久々に明るいニュースが飛び込んできた。それは「はやぶさ２」の活躍だ。「はやぶさ２」は、数々のトラブルを乗り越えて十年前に地球に帰還した初代「はやぶさ」に多くの改良が加えられた後継機だ。今回は、２０１４年１２月に地球を出発し、三年かけて約三億キロ離れた小惑星「リュウグウ」に到着し、様々な調査や採取を行ってきた。「リュウグウ」の大きさは、直径約九百メートルという、惑星といっても本当に小さい惑星で、この大きな宇宙空間の中では、どこにあるのかも分からないくらいの大きさだ。そんな小惑星に日本人の英知を結集させた「はやぶさ２」を着陸させ、石などの資料を持ち帰る宇宙探査ができ、そのカプセルをさらに三年かけて地球に持ち帰ることができた。と言うことは、日本の技術力を世界に知らしめることができたという点では誇らしいことだ。

しかし、そこまでくるには、数多くの失敗があり、その失敗を乗り越え、その失敗から改善を繰り返したことが今回の快挙につながったのだ。一回や二回の失敗ではないだろう。数多くの失敗をし、時には心が折れることもあったに違いない。でもそこを乗り越えたから偉業を達成することができた。

何かをするときには最初からうまくいくことはない。失敗を何回もしながらそこから学んでいくのだ。ちょっとやそっと失敗したからといってあきらめているようではそこまでのことだ。何回も失敗してそこから立ち上がるのだ。

（文責：小野口　吉政）